

平成 25 年度 第 2 回 公民館運営審議会

平成 25 年 9 月 12 日 (木) 14 時 00 分～
中央公民館 講座室 3

出席委員：川崎委員 生長委員 沼野副委員長 南村委員 武本委員 秋田委員
中野委員 関根委員 藤谷委員 井上委員 加嶋委員 大西委員、竹内
委員 浮穴委員長

出席職員：西野中央公民館長 大脇浜手地区公民館長 北野山手地区公民館長
稲田中央公民館館長補佐

案件

1 秋からの講座事業について 三館から説明

浮穴委員長：タイムズに掲載していないものも一覧表にはありますが、その
広報はどのように行うのですか。

大脇館長：別の月に市の広報に掲載するなどしています。

北野館長：チラシを庁内外の施設に配布したり、周辺地域に限ってポスティング
をしたり、町会からの配布を依頼することもあります。

井上委員：浜手の「孫育て講座」は具体的にどんな内容ですか？

大脇館長：助産師の話をきくことや、けがや急な病気の時の対応などについて
学びます。今回は聴くことが中心になり、少し企画として弱い気もしましたが、
できればレベルアップした形で、シリーズで継続したいと思っています。

井上委員：子育ての経験を活かした「知恵袋」のようなものを若い世代に伝える
のかと思ったのですが、逆に、現代の子育てについて祖父母の世代が学び、
若い世代が思っていることを祖父母に理解してもらうのですね。

大脇館長：どちらかといえば、そのような内容です。

藤谷委員：昨今は祖父母が孫をみることが多いので、いろいろ困ったときの対
処を学ぶ講座として、今回は健康のことに限られています。是非シリーズ
で継続してもらいたいと思います。「iPad で便利に楽しく」は対象がグルー
プ、団体等の代表となっていますが、一般成人が個人では参加できないので
すね。また 2 回目は 10 名です。

沼野副委員長：公民館が取り組む事業としての特色を出したということでは
ね？個人で習うなら他に教室があるけど、公民館で団体の代表が学んで皆に
伝え、今後の活動に活かすという…

大脇館長：確かに「公民館ならではの」という意味を持たせたのですが、もう一
つには、個人を対象にすると希望者が殺到すると思ったというのがあります。

秋田委員：iPad に限定するのですか？

大脇館長：講師が用意されるのが iPad ということです。1 回目はタブレット端
末の特徴についてのお話で、機器をさわることはありません。2 回目は機器
を実際に扱うので、お持ちの方に持参してもらう事も考えましたが、機種が
いろいろ違うとその説明に時間をとられるので、今回は iPad に限定させてい
ただきました。

秋田委員：現役世代対象に、浜手は土日の講座が結構多いですが、中央と山手
はあまりないように思います。中央ではクラブなどの活動が多く、部屋が取
れないという理由でしょうか？

稲田補佐：土日の事業につきましては、パソコンの講座他いくつかありますが、もっと増やすことについては課題であると思います。主催講座事業は最優先されますので、クラブ活動等との兼ね合いで制限されるということはありません。

北野館長：体制的に精いっぱいというのが実情ですが、土日にどんな講座を希望されるかを教えていただけたらと思います。

沼野副委員長：中央の映像講座、浜手の“オトナ”シリーズ等に参加し、夜間の講座は有難いと思いますが、フルタイムで働くようになって19時開講でも早いと思うようになりました。公民館が22時まであいているのなら、私には20時～21時30分が理想です。

大脇館長：夜間や休日に多くの講座を行うことは、職員の勤務体制の面で難しい面はありますね。夜間は一人が21時までの勤務で、土日は職員が二人です。一人が事務所、一人が講座担当というようにぎりぎりで回っていて、大きな行事になれば休日出勤の職員が出たり、連続講座の場合は担当職員がずっと出ることでもできず、最初と最後だけにして、間は当番職員があたったりしています。

大西委員：山手では「発達障がい」への取り組みがありますが、その言葉をズバリとタイトルに載せるのはいかがなものでしょうか。これを見て、自分の子どもや孫のことで気になることがあるという人が参加しようという気になるのでしょうか。もう少しゆるい言葉、あるいはサブタイトルで載せるなどのほうがいいのでは、と思います。

北野館長：貴重なご意見ありがとうございました。表現については悩みましたが、今年7月12日に、この講座の前段階として講演会「発達障がいの子どもを理解するために」を開催し、72名の参加があったことに手ごたえを感じました。こちらの意図をわかってもらうために、あえてタイトルに使わせていただくことにしました。

加嶋委員：私もそのときに参加しました。チラシに「関心のある方、どなたでもお気軽に」と書いてあったので、子育てに関わる活動をしている者として参加しやすく思いました。

浮穴委員長：後でふれますが、近畿公民館大会の第3分科会「人権教育の推進と公民館」のところで山手公民館の城野さんが、このテーマで発表されます。継続的に取り組んでおられるようですね。

沼野副委員長：中央では山手の「おさんぽかばさん」にあたるような取り組みはないでしょうか？

稲田補佐：過去に2か所の町会館（脇浜南、堤）で町会や民生委員ともつながりながら乳幼児親子の交流の場（「おでかけよちよちサロン」）を設けましたが、今後他地域にも広げ、継続した取り組みにする必要があると思います。

沼野副委員長：公民館まで来られない人が、気軽にバギーを押して来られるような場所を、単発的ではなく継続して保障してもらいたいと思います。

「シングルママのほほえみタイム」で、今回の“子どもの自尊感情を高め、犯罪から身を守る”という内容は、特に母子家庭限定に学んでもらいたい事でもないと思いますが…

稲田補佐：前期は親子料理を通して交流を図りました。その時の交流会で学びたい内容についての希望がありましたので、今回の企画になっています。

西野館長：土日や夜間の講座は公民館にとって課題となっています。日中は高齢者や主婦層で満杯となり、同じ人が複数の講座に参加することもある一方で、公民館に来てもらえない層が依然としてあります。また、中央公民館には統括館としての「中央館」という役割と、「中央地区公民館」という役割の2つがありますが、今まで後者一周辺地域への取組みが大変弱かったと思います。中央公民館は浜手山手より職員数は多いですが、拠点とする団体が多いなど職員の業務量が増えるという面はあります。しかしながら、これからは中央地区というエリアを見据えた活動を増やしていくことが大事だと考えています。

浮穴委員長：休日や夜間の講座に加え、地域にも広げると参加者層は広がりますね。凝縮して行ってもらいたいと思います。

2 今後の予定

○全国公民館研究集会について

(富良野市 10月17日～18日 秋田委員出席)

○近畿公民館大会について(奈良市 11月14～15日)

西野館長：どちらも大会の趣旨の中で、地域コミュニティにおいて公民館の果たす役割が大きいことを強調しています。また、近畿公民館大会の来年の開催地は大阪です。どこで開催するのか、実は貝塚しかないのです。大阪府公民館振興協議会が解散し、それに替わって大阪府公民館・関連施設連絡会を発足させましたが、財政的基盤の伴わない団体です。いろいろな困難はあると思いますが、大阪府教育委員会からも担当者を派遣してくれていますので、平成26年11月に一日で開催する予定です。

沼野副委員長：何か我々で協力できる事があればおっしゃってください。設置する事が義務ではない、公民館運営審議会が貝塚市には設置されていて、委員が北海道の研究集会に参加する旅費も保障されているという事は本当にすごい事です。今日の案件にはありませんが、2月の貝塚公民館大会に向かった取組みも進められています。

西野館長：全国公民館研究集会と近畿公民館大会の報告とともに、貝塚の公民館大会について次回の案件としたいと思います。

次回審議会 平成25年11月19日(火) 14時～

この後、竹内委員による研修がありました。次のページに概要を載せています。

研修

『生涯学習について』

1 生涯学習という言葉

(1) 1965年の第1回ユネスコ世界成人教育会議での lifelong integrated education の提言

ポールラングランは学生の時期に学校という空間だけでなく、時間的な統合と空間的な統合が必要と提言

昭和40年代は生涯教育と呼んでいた。意図的な学習の仕組みを教育と言う

臨時教育審議会第4次答申(1987年)「個性尊重、生涯学習、変化への対応」により「生涯学習」に統一

(2) 第5回ユネスコ国際成人教育会議で「権利としての学習」を採択

学習権＝歴史をつくる主体としての不可欠な事柄

「学習活動は、なりゆきまかせの客体から、歴史をつくる主体にかえていくものである。」(『学習権宣言』から)

(3) OECDでのソーシャル・キャピタル(社会関係資本)研究

ソーシャル・キャピタル＝その地域社会全体の人間関係の豊かさ

社会の豊かさはその地域に住んでいる人々のネットワーク・規範・信頼の高さに関連している。＝生涯学習で習得

2 政府における生涯学習の取り組み

(1) 第6期中央教育審議会生涯学習分科会における論議の整理

OECDのソーシャルキャピタル論議を受けて

求められるもの＝個人の自立に向けた学習、絆づくり・地域づくりに向けた体制づくり

社会教育の役割

①地域住民同士が学びあい、教えあう相互学習を通じて、人々の教養の向上、健康の増進等を図り、人と人の絆を強くする

②地域住民の自立に向けた意識を高め、協働による地域づくりの実践に結びつけていく

☆個人の楽しみや自己の向上のためだけでなく、学びを通じて「生きがい」を見つけ、続けることが更に重要に

(2) 「長寿社会における生涯学習の在り方について」

平成24年3月「超高齢社会における生涯学習の在り方に関する検討会」報告書から

人生100年いくつになっても学ぶ幸せ「幸齢社会」

65歳以上の高齢者の割合は2010年で23%、平均寿命は男性79.64歳、女性86.39歳。リタイア後の20年にも及ぶ人生を、健康で、生きがいを持ち、自らが持つ能力を最大限に活用して生きていく準備が求められる。

生きがいの創出、地域が抱える課題の解決、新たな縁・絆の構築、健康維持・介護予防…生涯学習は、全ての人が心豊かで幸せな人生を送るための生活保障としての役割を有している。「地縁・血縁」が薄れつつある現代社会にあって、学習活動や社会参画を通じて人と人がつながり、支えあう共生の社会を実現させる。

☆竹内委員の解説を聞いた後、グループに分かれ討論。

- 第1グループ（中野委員 加嶋委員 生長委員 川崎委員 西野 大脇）
学びあう以前の問題として、地域での困りごとなどがよく見えてこない。
（個人情報保護の関係で名簿が公表されない。）だからこそ相互の助け合いが重要。公民館に来ることができない人に、利用者から広げる。公民館と住民とのバランスよい協働で、公民館の力で地域の課題を解決していけるようにする。

- 第2グループ（関根委員、南村委員、井上委員、浮穴委員長、秋田委員 稲田）

- ①「社会教育」と「生涯学習」の違い→「学習」とは本能的なものもあるが、ここでいう学習とは主体的に行うもの。「教育」は主体的な学習を行う場を保障すること。公民館は地域の教育機関。教育委員会から市長部局に移行されると行政の役割が希薄になる。
- ② 現代は人間関係が希薄な状態だが、それがいけないことだとみんなが思っているのだろうか。学校教育の段階では、学習指導要領の改定などでカリキュラムが過密になり相互学習をあまり取り入れることができない。社会にでてから“学びあい”“育てあい”と言われても、その理念を理解することは難しい。だからこそ、税金を投入して公民館で学びを保障している意味を説明できなければならない。

- 第3グループ（沼野副委員長、大西委員、武本委員、藤谷委員、北野）

- ①（絆づくり）公民館でのグループ活動と、地域をつなぐ活動はできている。職員の役割も重要だし、地域の方も一歩をふみだす勇気をもってほしい。
- ②（高齢者）元気な方も多いが公民館まで来られない方もいるので、受け皿としての地域展開がますます重要になる。相互に連携して拓げてゆく。